

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念はいつでも職員や来訪者の目に触れ易い所に掲げ、唱和も行っている。また全体会議やケアカンファレンス等で認知症への理解を学ぶ事を常に心掛け、理念についてさらに理解を深める努力をしている。	理念は、開放的な事務所に掲示され、常時目にできる環境の中、毎朝の朝礼でも唱和し、その内容を思いのスタートとして職員が一丸となり、一人ひとりに寄り添った取り組みを実践していました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	開所以来隣組の班に参加して、隣組長を2回勤めさせて頂いている。区の行事にも積極的に参加していますが、コロナ禍のため行事に参加できていない。のぞみ便りを配布して活動報告している。	地元和田地区の自治会に入り、組長も務めるなど積極的に行事に参加して交流を深めていました。当たり前の環境を整えることで、のぞみの情報を配信して地域の一員となっていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の福祉体験学習、短期大学の福祉実習受け入れを積極的に行っている。市の見守り事業所として登録し、市の有線放送を事務所に設置し、行方不明者の発見に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	引き続きコロナ禍の影響で、例年開催された市連絡協議会やグループホーム部会の開催が中止されているが、メールでのアンケート調査など随時対応している。	コロナ禍の為、書面での報告書を市の包括支援センターや高齢福祉課、地区副区長などに配送し、事故報告はゼロであってもヒヤリハットを明記し状況を伝えて、対策に至るまで丁寧な報告書を作成していました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の連絡協議会、研修会に積極的に参加している。コロナ禍であるがオンライン開催にも参加している。包括支援センターに入所待機者情報やその他の情報を報告相談している。	自治会から市、そして県へと関わる中、身近な声を大切に積極的な事業所展開を図られています。しっかりした法人体制を築き、市町村との連携も整え、最新情報を収集して良好な事業所運営に臨んでいました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正委員会は研修に参加し、定期的な勉強会を通して職員に周知を行い、身体拘束しない事を徹底している。何か困ったことがあった場合には家族にお知らせして、職員だけで解決する事なく医療や地域と協力している。	運営推進会議報告書類に記録されているヒヤリハットから、身体拘束のないケアに取り組んでいる様子が伺えました。朝から落ち着きのない方が部屋から外に出てしまっていた場合は、本人の気分転換を図れるよう好きな事を提供し、職員間での声掛けを強化するなどして把握されていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に虐待防止の為の研修やアンケートを実施し、カンファレンスや情報交換を行い、虐待が見過ごされる事が無い様に注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について、各種研修、社内研修などを行い知識を深め、利用者の尊厳を守るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約者、重要事項説明書に沿って、利用者や家族に分かり易く確認を行いながら丁寧な説明を行っている。締結時、解約時、改定時の説明により理解、納得を得ている。また事業所内で閲覧出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナの為、ご意見、苦情等は所内会議を開催し、検討・改善をして、入居者ご家族への連絡をしたり、運営推進委員会へは書面で報告をしている。	ブログの配信で内部の様子を伝え、苦情意見箱を設置するなどして、ご本人やご家族の意見を真摯に受け入れ、定例会議や推進委員会に提示して、より満足して頂けるサービスを展開されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	コロナ禍になってからは、全体会議から毎日の勤務者のミーティングの中で意見など発言する機会を設け、記録、改善などタブレットにも記録され、管理者や職員が常に把握し対応している。また、面会室設置になった事で、定期的な個別面談を行い、忌憚なく意見の言える場を設けている。	直接話すより文章で伝える方が相談しやすいとの意見があり、法人でSNSワークプレイスを導入し、社内間でのやり取りを行っています。理事長・管理者をはじめ、各グループでの関係性も密になり、率直な意見を出し合い、良好な運営を図られていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施錠できる職員ロッカーを完備し、休憩時間確保の徹底と、休憩室として間仕切りができる和室でゆっくり休めるよう環境を整えている。また職員の食事は、感染予防対策として個別で摂るよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の向上を図る為、計画的に研修や勉強の機会が設けられている。外部研修は、個々のレベルに応じた研修に交代で参加している。また常勤、非常勤に関わらず積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との勉強会や相互訪問などの活動、また市のグループホーム会に加入しているが、コロナ禍のため現在は交流の場は中止が多い為、電話で情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員からの事前の収集情報を元に本人のアセスメントを行い、困っている事、不安な事、要望等を傾聴してコミュニケーションを取りながら、本人が安心出来るように務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時には家族や本人の気持ちを聞き、サービスの計画をしっかり立てている。また、面会時や電話でも日頃の様子を伝えながら、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族の要望や思いなどを大事にしなが、入居者の暮らしぶり全体を把握した上で、必要とした支援を見極めた対応に努めている。また状態に応じた他施設の提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は本人ができることを見極め、畑仕事や家事などを職員と一緒にやる事で、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の本人との関わりを細目に家族に伝達し、家族にしかできない事を相談しながら、共に支援していくことが出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染症拡大防止対策で、面会・外出に制限がある為、家族にはお便りで情報を伝え、電話対応・web面会で関係が途切れないよう対応している。	コロナ禍の為外出制限があり、ご家族に毎月のぞみの家便りを配送して書面で報告をし、変わらず元気で過ごされている様子を配信していました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の食事やお茶、レクリエーション、また行事など全員で参加して頂き、楽しい雰囲気作りを努めている。また、小さなトラブルや感情のすれ違いに早期に気づき、職員が介入する事で良い関係が継続できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も野菜やタオル等寄付して下さるご家族もあり、その際に積極的に声を掛けその後の様子や相談・悩みなど伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎朝カンファレンスを行い、個々の様子を周知して、利用者の想いを丁寧に察するようになっている。また、タブレットには毎日の全利用者のこまめな日常の様子を記録し、情報共有して一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	毎日の引き継ぎとして、個々の体調や状況をタブレットに明記し、職員全体で共有できるシステムとなっていました。その日、その日の状態を把握して、利用者個々の想いに沿ったケアに繋げていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に生活歴や生活環境、その方らしさを知る為の調査に記入して頂き、折に触れて入居者やご家族のお話をゆっくりと伺い、一人一人の人生の把握に努めている。介護支援専門員・医療機関からは、必ず情報提供書を頂きサービス利用の経過等を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の役割の中で出来ている事、出来なくなっている事など持てる力を見極めて、暮らしの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングだけではなく、日々の記録やカンファレンスでの情報、普段からの本人や家族との何気ない会話の中から見える思いや希望も捉え、計画に反映している。状態が変わった時にもその都度見直し計画を立てている。	海外介護士育成協議会を法人で立ち上げ、海外からの学びの場として技能実習生を受け入れるなどして、共に働き、利用者への接遇について互いに学びあい、より充実したケアを導き出していました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	タブレットには利用者の日々の様子を記録し、心身状態や活動等を細かく記録し、またカンファレンスで情報共有を行い、一日ごとの体調の変化等もしっかり共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々にも生じたニーズに応じて、本人や家族の意向も確認して、入居者主体の柔軟な支援やサービスが行えるように臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要性に応じて民生委員やボランティア、警察、消防等と協力しながら支援しているが、現在はコロナ感染予防の為難しい状況にある。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業者の関係を築きながら、適切な医療や往診が継続して受けられている。	同法人の運営で隣接する医療機関があり、日頃から訪問看護として協力体制も整備され、主治医の定期的な往診を受けるなど、一番身近で顔馴染みなかかりつけ医として安心した暮らしが提供されていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	普段は隣接するかかりつけ医の看護師と連携しているが、訪問看護と契約を結び、主治医の指示があれば訪問看護師が来て処置など受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、入居者の既往歴や入院までの経緯など必要な情報は全て提供している。退院時は、主治医、看護師、家族を交えたケアカンファレンスを行い、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化した場合や終末期には本人や家族と十分な話し合いをし、本人や家族の意思を尊重した医療・ケア方針決定に対する支援に努めている。医師、看護師、介護スタッフが共同して利用者の状態や家族の求めに応じて随時説明を行い、同意を得ている。	当事業所では、開所当初よりターミナルケアは当たり前として運営しており、医師・看護師・スタッフとの連携と協力体制が整い、その時々々の状態や利用者・ご家族の想いに沿った看取りの支援に取り組まれました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全職員が救命救急の講習を受けている。定期的に心肺蘇生の練習をしたり、研修を行っていたが、現在はコロナ禍の為講習会の研修に合わせ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	以前は消防署の方の指導の下で訓練を行っていたが、コロナ禍の為現在は年に2回の災害訓練の実施の届け出と報告をしている。和田区災害時の相互援助協力協定書が締結されていて、訓練時には自治会や法人、のぞみグループの協力をお願いしている。	地元地区との災害時相互援助協力協定書を交わし、自治体と法人全体での避難訓練を行っていました。コロナ禍になり、避難訓練の実施状況を書面であげ、消防署に報告し、テーマを変えるなど工夫した実践報告書になっていました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	全体研修やホームの研修で一人一人の人格を尊重し、人権意識を徹底してプライバシーの確保に努めている。挨拶をする時は立ち止まり、笑顔で挨拶を心掛けている。	利用者さん一人ひとりの性格や生き立ち等を理解し、法人全体の研修で人権を学び、ホーム内の会議で事例検討する中、一人ひとりに向き合った日々のケアを大切に考え、失礼のない挨拶を心がけていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で自己決定が出来るよう、具体的な選択肢を提示をしながら、希望が表出できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人の個性を尊重して、大まかな予定はあるがそれに拘らず、その日の体調や気分などを見ながら柔軟に対応している。寒い朝ゆっくり寝ていたい方には朝食をずらしたり、毎日入浴したい方には入浴して頂くなど、一人一人のペースや希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自分の好きな洋服と一緒に選んで、季節に合った洋服を着て頂いたり、アクセサリ等でオシャレも楽しんで頂いている。身だしなみの支援では鏡の前で声掛けをしながら整髪をして頂いたり、散髪なども本人が好む髪型になるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒にホーム内の畑で野菜作りを行ったり、良く実った野菜や果物の収穫を楽しんで頂く事で、それぞれの出来る力を活かしながら楽しんでいる。また採れたての食材を使っての食事作りや、昔作っていた料理やおやつなど教えて頂きながら一緒に作っている。	毎日3食手作り料理を提供し、奮闘している職員を見て、その日の思いで「今、自分で手伝える事」として、玉ねぎの皮剥きだったり、炒めたりと一緒に行ってました。メニューによっては得意の分野もあるようで、お団子作りは教えてもらえる事もあると、関わりを大切にしながら調理を楽しんでいました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の献立メニューを記録し、栄養士に献立を評価して貰い、それを元に見直し、献立づくりに活かしている。摂取状態や量、水分量を毎食記録し、一人一人の必要に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きや義歯のケアを誘導している。その際、利用者の自立度に応じて、見守り、介助を行っている。必要に応じて歯科訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	毎日のカンファレンスで習慣を活かしながら、捉われることなくこまめな情報交換をおこない、排泄パターンを検討して自立排泄に向けた支援に取り組んでいる。	リハビリパンツを履いていることで安心感がわき、徐々にトイレの場所を覚えて自力排泄が出来るようになったケースもあり、その日のコンディションにより見守りが無理な時は定時排泄を促したり、その日の申し送りから対応にも変化を加えていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維が豊富な食材を取り入れ、お腹の刺激になるような飲み物等を配ったり、また出来る限り活動量を増やし、運動など働きかけて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人一人の入浴のタイミングや時間など、職員の都合で決めてしまわず、利用者の希望に合わせて入浴をゆっくり楽しめるように行っている。また拒否があった場合は職員同士で協力して工夫している。	入浴へのお誘いも、その日のコンディションやタイミングで無理強いないように配慮し、人を変え、話題を変え、声の掛け方を工夫するなど、チームで柔軟な対応で気持ちの良い支援に取り組んでいました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人一人の睡眠パターン、生活リズムを把握し、日中は活動的に、夕方から夜間は穏やかに安心して頂けるように電気の調整の配慮もしている。また夜間は眠れない方の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理の場所には薬情ファイルが置いてあり、ユニット毎で薬情を毎回綴り、いつでも職員が薬の目的や、副作用、用法や容量が確認できる様になっている。薬が変わる都度カンファレンスでも周知している。薬の扱いについては3重のチェックで誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴や趣味を把握して、活かした役割を持って頂き、各自の能力に応じた作業が楽しみながら出来る様にしている。また必要とされていると感じられる場面を作るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為、家族や地域の方の協力は難しいが、職員と一緒に近所へ散歩に出かけたり、花を見に行ったりと季節の変化に気付いて頂いている。またその様子を電話やお便り、ブログでお知らせをしている。	コロナ禍と寒さの為、近所への散歩は難しい時もありますが、職員と一緒に付き添いながら、暖かい日は散歩に出かけたり、ホーム内で栽培している野菜畑を散策したり、中庭でのピクニックも楽しんでいました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は一緒に買い物に出かけられたが、コロナ禍の為現在はお金を本人が扱う事はなく、家族や本人に使う用途など説明し、希望や要望等、必要に応じて買い物の代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持っている方には自由に電話をして頂いたり、また希望があれば職員が家族などと電話を繋ぎ支援している。家族からの手紙などは職員が読みながら伝え渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中は殆どの方が共有スペースのリビングで過ごされる事が多く、不快な音や匂いには気を付けて、季節に応じた花や置物を飾ったりと、ゆったりくつろげる空間づくりを心掛けている。また家庭的な雰囲気にするように心掛けている。	建物は木造作りの温かみのある平屋で、玄関を入ると広々としたリビングが広がり、その奥座敷にはコタツが作られていました。リビングから対面式の台所では、利用者さんと職員が一緒に入り、食事の準備や片づけを行っており、家庭的で温もりを感じられる雰囲気となっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースには和室があり、リビングにはソファを置いたり、中庭にはベンチを置いて、思い思いに自由に過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居される時に出来るだけ今まで使っていた寝具、家具、時計、アルバムや趣味の物をお持ちして頂く様をお願いしている。それぞれ馴染みのある自分らしい部屋で安心して過ごしている。	各部屋には自宅から馴染みの家具、調度品を自由に持ち込み、ご自分で描いた絵画や書道、ご本人の若い時の写真、ご家族の写真等々、思い出の品が沢山飾られていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内の利用者が歩く場所の障害物になるような事に気を付け、トイレの場所や方向の標示をする事で安全で、なおかつ出来るだけ自立ができる様に工夫している。		